〔千葉医学 58, 385～386, 1982〕

〔学会〕

第3回　千葉県カルシウム代謝研究会

日　時：昭和56年10月31日
場　所：千葉県自治会館

1. Hydrochlorothiazide による高カルシウム尿症の治療

山口邦雄，内藤　仁，宮内大成
村上光右，伊藤晴夫，島崎　淳
（千大・泌尿器科）

高カルシウム尿症は，尿路結石形成の危険因子である。今回，我々は，尿路結石症の既往がある高カルシウム尿症20例に，Hydrochlorothiazide を投与し以下の結果を得た。投与後1カ月目に尿中カルシウム排泄の有意の低下をみた。マグネシウムとカルシウムの比は，有意に上昇した。血中尿酸値はほぼ全例に有意の上昇があり，高尿酸血症は1例に生じた。血中カリウム値の低下は，18例中16例にみられ，有意の低下であった。重篤な副作用はみれらなかった。以上をもとに若干の文献的考察を加え，今後の問題点を示した。

2. 長期透析患者の Ca 代謝異常 —MD 法の解析結果について—

入江康文，嶋田俊恒（社会保険千葉病院）
織田成人，小高通夫　（千大・第2外科）

長期透析患者の renal osteodystrophy をチェックする目的で従来から metacarpal index を測定していたが，肉眼的な測定で，ある程度の誤差があった為，microdensitometer を用いて測定する方法を導入した。その結果，透析期間，年齢と，MCI は負の相関を示し，重症度分類とは正の相関を示した。特に閉経後の女性は dystrophy の程度が高度であった。又2年以上 α-D_3 を使用した患者では dystrophy の改善が認められた。

3. 低カルシウム，低リン血症を認めた急性リンパ性白血病の1例

杉田克生，佐藤浩一，宮本茂樹
猪股弘明　　（千大・小児）

患児は急激な食欲低下および出血斑を主訴に来院した。入院時諸検査にて ALL と診断され，同時に血中 Ca 8.1，I-P 1.5 と低カルシウム・低リン血症を認めた。血中 Mg は正常で，ホルモン検査上 PTH-C 末端およびカルシトニンの高値と25 (OH) Vit D_3 の低値を認めた。原疾患の治療をしつつ，Ca および P の経口投与をするも著効せず，1.25 $(OH)_2$ Vit D_3 の投与により血中 Ca，I-P ならびに他のホルモンの正常化を認めた。患児は特に腎機能障害も認めておらず，今の所低カルシウム・低リン血症の原因は不明である。ただし白血病細胞よりの PTH あるいはカルシトニン様物質の分泌が報告されており，我々も患児の白血病細胞の分離培養を行い，今後ホルモン学的検索を進める予定である。

4. 副甲状腺機能亢進症術後に生じた hungry bone syndrome におけるビタミンD代謝動態

寺野　隆，田村　泰，熊谷　朗
（千大・2内）

症例は46歳女性，昭和52年より関節痛が出現，昭和55年4月急性膵炎を合併し入院。骨型副甲状腺機能亢進症の診断のもとに6月に右上葉に3.2g の副甲状腺腫を摘出。その後 Hungry bone syndrome を呈し，ビタミンDなどの投与にもかかわらず著しい低 Ca，低P血症が出現持続した。PTX 前 Ca 11.3mg/dl，P 1.7mg/dl，PTH-C 2740pg/ml であった。PTH は術後1カ月で正常化するも血清 Ca，P の正常化には約1.2年を要した。また自立歩行可能になるにも1年を要した。外因性 PTH に対する尿中P排泄増加も術後欠如していたが，約6カ月後血清Pの上昇とともに正常化した。ビタミンDは，術前25 (OH) VD が 8 ng/ml，1.25 $(OH)_2$ VD が 22pg/ml といずれも低下傾向にあったが，昭和56年9月には25 (OH) VD が28ng/ml，1.25 $(OH)_2$ VD が123 pg/ml と増加した。術前の低値も考えると，術前よりビタミンD欠乏状態であったとも考えられる。